

各水試発トピックス

第45回日口研究交流

道総研水産研究本部とサハリン漁業海洋学研究所（サフニロ）との第45回日口研究交流会議が平成25年6月27、28日、ユジノサハリンスクのサハリン漁業海洋学研究所（サフニロ）で開催されました。今回の研究交流には筆者と釧路水試主査（資源管理）美坂正氏、中央水試研究主任山口浩志氏の3名が派遣されました。今年からビザは電子申請となり、パソコンに向かい初めての申請に苦労しましたが、なんとか出発までたどり着くことができました。6月26日、千歳から空路でユジノサハリンスクに向かい1時間余の飛行の後に到着しました。時差は2時間、日本時間では14時30分の到着ですが既に16時30分になっていました。天候は晴れ、北海道と同じような気候でしたが風が少し冷たいようでした。サフニロからは秘書のイフシナさんと通訳の方が迎えてくれ、一路、宿泊先であるガガーリンホテルへ向かいました。ホテルについて軽い休憩の後、夕食に招待され、ベリカノフ部長はじめサフニロの方々とウズベキスタン料理で親好を深めました。

翌日の研究交流ではブスロフ所長の歓迎挨拶の後、研究発表が行われました。ミーティングテーブルには今回の交流のために作られたメモ帳が載っており、サフニロ側の心配りが感じられました。日本からの発表は山口主任による「北海道におけるホッコクアカエビの資源管理」、美坂主査による

「甲長コホート解析によるケガニの資源評価」、筆者からは「北海道内水面漁業と養殖業」と題して現状の紹介をしました。サフニロからはタートル海峡のホッコクアカエビの資源量についてやサハリン西部のカレイ類、ツナイチャ湖の魚類相、南サハリンの沿岸水域における低次生物生産やコンブの研究結果についての発表がなされました。会議は2日に亘りましたが、二日目の夕食は歓迎会ということで「黒猫」というレストランに招待され、食べたことのないウサギの肉や、7回にも及ぶウォッカの乾杯という手厚いおもてなしを受けました。第46回研究交流は、平成26年6月から7月にかけて北海道で開催予定です。

（小出展久 さげます内水試内水面資源部）



写真1 研究交流の後、サフニロの玄関前で
左からゾロトフ、ヴァシレツ、美坂、小出、ベリカノフ、山口、ラトコフスカヤ、ガラニン